

# 福島大 活動報告

全日本学生自治会総連合  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/

## 琉球大学名誉教授 矢ヶ崎克馬さんより (NAZEN呼びかけ人) 10・21結集アピール! (抜粋)

住民の命を守り、主権在民の政治を確認するために。原爆被爆以来繰り返されてきた「内部被曝隠し」による住民の命切り捨てを許してはならないと思います。

日本政府は、東電の原子力発電所が事故を起こした時点で、何も国民を守る術を知らず、国民を犠牲にすることを真っ先に行いました。それは爆発直後に安定ヨウ素剤すら与えず、被曝限度を1m Svから20mSvに引き上げることから始まりました。原子力発電所の事故があった時に、児童に対してどんな保護策や避難方法を指示すべきか、病院に対してどのような患者さん移送体制を整えるか、市民を放射能から保護してその恐怖をどのように検知してもらうか等々、一切が「安全神話」により検討さえされていない状況でした。これは、老人病院の患者さんが強制移送によって何人も命を失ってしまう事故として表面化しています。

また、原子力発電所の事故に際して国家としてどのような体制を整えるべきか、という住民を守る国の備えも全く先例を学ぶことが無いものでした。ウクライナは年間1mSv以上の汚染地は住民保護として（強制的あるいは希望によって）「移住」を対象とするものでした。

スイスやポーランドは汚染のひどい地域の牧畜製品を一切移動・販売禁止にして、生産者に対して国家補償を行う措置を取りました。

日本政府は何をしたのでしょうか?東電と国家の責任を可能な限り免罪することに狂奔し、国民の命を軽んじてきたとしか言いようがありません。

たかがお湯を沸かすだけでこのような危険極まりない原子力を用いることは、お互いに助け合いながら生きようとする健全な国民が選択するところではありません。都市部の人間が電力を享受するために過疎地の人々に危険を押し付ける思想は、平和を希求する市民の望むところでは決してありません。アメリカの核戦略に従って住民を犠牲にする日本の政治には、終止符を打たねばなりません。国民が良く事実を学び、自らの意思を明確にして、主張していくしか日本の主権を確保する方法はありません。頑張りましょう。



## 福島から大学を問う

10月21日(金)  
12:00~集会16:30~講演会  
福大キャンパスS棟前集合

# 10・21全国学生集会へ



10月15日、郡山で「放射能から子どもたちを守る福島ネット」などの呼びかけで「原発反対!」「子どもたちをただちに疎開させる!」と訴え、「怒 福島隊」ののぼりを林立させて集会とデモが300人の結集で開われました! (上写真)

全学連や新たに結成された「フクシマNAZEN」、俳優の山本太郎さんも駆けつけ (右写真)、郡山市民の圧倒的な注目の元、市役所に向かってデモを打ち抜きました。全学連福島現地行動隊 (下写真) の「御用学者・山下俊一を追放しろ!」というコールには沿道も含めて「そうだ!」の声が!

次は10・21福島大集会だ! 全力で結集を!



10/16の福島民報に郡山集会とデモの報告が載りました!

低線量被ばくの危険性訴えデモ  
郡山 郡山市に放射線量の低い土地での教育活動を求めた仮処分申請の代理人の柳原敏夫や原告団と闘う市民 土らがあいさつし、団体などが十五日、市 線量被ばくの危険性を訴えた。行政や東京電力に事故被害の救済などを強く求める「郡山宣言」を採択した。

俳優の山本太郎さんも加わり、駅前大通りから市役所まで約二・六キロを進行しながら「原発いらない」などと呼び掛けた。

内中心部をデモ行進した。郡山駅前西口広場で集会を開いた。黒田節子 郡山実行委員長や原告団の代表者も参加した。 寄 添いな (事務局・仙台市) は 震災被災者の 悩みを聞く 無料総合

ホドセンター) 添いな (事務局・仙台市) は 震災被災者の 悩みを聞く 無料総合